

都市再生整備計画 事後評価シート
JR 芦原温泉駅周辺地区(第二期)








平成26年1月

福井県あわら市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県	市町村名	あわら市	地区名	J R 芦原温泉駅周辺地区(第二期)			面積	280ha			
交付期間	平成22年度～25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	351百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道105号線、市道十日・嫁威線、市道52号線)、地域生活基盤施設((仮称)にぎわい交流広場)									
		提案事業	地域創造支援事業(建物解体・撤去)、事業活用調査(事業効果分析)、まちづくり活動推進事業(ワークショップ)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	なし									
	新たに追加した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
交付期間の変更	当初	平成22年度～25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
	変更	なし										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度				
	指標1	乗降客数(減少率)	%	-5	H20	0	H25	-3	×	あり	第一期事業(平成19年度～21年度)で整備した駅周辺駐車場の効果発現、駅直近部における土地区画整理事業区域内での住宅の新築が進んだことなどから、乗降客数の減少率が改善された。	平成26年6月
									なし			
	指標2	交通事故発生件数	件/年	157	H20	151	H25	188	×	あり	歩道改良等を実施した区域が限定的で、それ以外の区域における影響が大きく、目標値を達成することができなかった。しかし、地区全体の人身事故数や事業を実施した周辺交通事故は減少しており、一定の効果が現える。	平成26年6月
								なし				
指標2	定住人口数	人	8,596	H20	8,600	H25	8,355	×	あり	本事業による安全な道路空間の整備や第一期事業で道路や公園等の整備を行ったエリアでは人口が増加したが、市街地中心部での人口減少が予想以上に進み、地区全体での人口は減少し、目標値の達成には至らなかった。	平成26年6月	
								なし				
指標3	地域コミュニティ活動回数	回/年	6	H20	8	H25	10		あり	第一期事業から継続的に実施されている花と緑のまちづくりや景観形成に係る取り組み等の様々な活動の展開を支援したことで、地域主体のまちづくり活動の機会が増加し、目標値を達成することができた。	平成26年6月	
								なし				
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度				
その他の数値指標1												
4) 定性的な効果発現状況	第一期事業から継続的に実施されている花と緑のまちづくりや景観形成に係る取り組みなど、住民主体の様々なまちづくり活動により、駅周辺界隈において良好な街並み景観が創出された。											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	花いっぱい運動 ガーデニング講座		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					住民主体のまちづくり活動に対する持続的な支援を行うとともに地域の個性を創出する取組みを促す。			
	持続的なまちづくり体制の構築	景観まちづくり協議会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					景観まちづくり協議会の組織化や、他のまちづくり組織との連携強化に係る支援を行い、効果的な活動を促す。			

様式2 - 2 地区の概要

草津駅東地区(滋賀県草津市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：将来の北陸新幹線芦原温泉駅の現駅併設を見据え、定住環境の向上を図りながら駅周辺の活力あるまちづくりを進める。 目標1 結節点機能の強化 目標2 安心で安全な人にやさしい道路の整備 目標3 地域内のコミュニティ活動の促進		乗降客数(減少率)	単位:%	-5	H20	0	H25	-3	H25
		交通事故発生件数	単位:件/年	157	H20	151	H25	188	H25
		定住人口数	単位:人	8,596	H20	8,600	H25	8,355	H25
		地域コミュニティ活動回数	単位:回/年	6	H20	8	H25	10	H25
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">  <p>まちづくり活動</p>  <p>まちづくり活動</p>  <p>市道52号線歩道改良事業</p> </div> <div style="width: 55%; text-align: center;">  <p>■基幹事業:道路(修繕) (市道)十日・嫁威線歩道改良事業 L=70m</p> <p>■基幹事業:道路(改良) (市道)105号線改良事業 L=80m</p> <p>■基幹事業:地域生活基盤施設(広場) (仮称)にぎわい交流広場 A=2,901㎡</p> <p>■提案事業:地域創造支援事業 建物解体・撤去 1棟(A=605㎡)</p> <p>■関連事業 あわら市景観計画策定 (H21~23)</p> <p>■提案事業 まちづくり活動推進事業 (ワークショップ)</p> <p>■提案事業 事業活用調査事業 (事業効果分析調査)</p> <p>■基幹事業:道路(修繕) (市道)52号線歩道改良事業 L=48m</p> <p>凡例 ■基幹事業 ■提案事業 ■関連事業</p> <p>凡例 — 都市再生整備計画区域 0 50 100 200 300 400 500m S=1:15,000</p> </div> <div style="width: 20%;">  <p>市道十日・嫁威線歩道改良事業</p>  <p>市道105号線改良事業</p>  <p>(仮称)にぎわい交流広場整備事業</p> </div> </div>									
まちの課題の変化 第一期事業(平成19年度~21年度)で整備した駅周辺駐車場の効果発現、駅直近部における土地区画整理事業区域内での住宅の新築が進んだことなどから、乗降客数の減少率が改善された。第一期事業から継続的に実施されている花と緑のまちづくりや景観形成に係る取り組み等の支援により、地域主体のまちづくりに係る市民意識が向上し、継続的な活動が展開されている。この活動を通して、JR芦原温泉駅西口周辺では、潤いに満ちた街なか環境が創出されつつある。北陸新幹線金沢開業や将来的にJR芦原温泉駅に併設して新幹線駅が設置されるインパクトを的確に受け止める駅周辺の整備が必要である。安全性や快適性の確保など、生活環境のより一層の改善が必要である。市街地中心部の人口減少を抑制し、地域活力の維持・向上を図る必要がある。市による一定の支援のもとに、様々なまちづくり活動が展開されているが、これらの活動や組織について横断的な調整ができていない。									
今後のまちづくりの方策(改善策を含む) 県と一体となってカーセーブ運動を推進する他、駅周辺駐車場の利用実態に係る定期的なモニタリングを実施し、利用状況を継続的に調査する。住民主体のまちづくり活動を継続的に支援し、地域コミュニティの更なる充実を図る。あわら市や周辺市町を含む広域観光の玄関口として、西口広場の整備やアクセス道路等の整備を推進し、JR芦原温泉駅西口周辺の魅力アップや駅利用の利便性の更なる向上を図る。道路や公園等の生活基盤の整備を促進し、安全で快適な生活環境を創出する他、交通事故件数の抑制に向けて、警察署や関係機関・団体等との連携を図りながら、幼児、小・中学生、高齢者、ドライバー等を対象とした交通安全啓発活動の更なる充実を図る。また、子育て支援施設の充実等を図り、若い世代にとって生活しやすい環境を整える。平成21年7月より施行されているあわら市空き家情報バンクの周知を図り、制度の活用を促進する他、官民協働による空き店舗対策を推進する。また、地域住民等と連携しながら、良好な街並み景観の形成に向けた具体的な取り組みを推進する。各活動や組織の横断的な調整を図る機会を設け、活動の充実を図る。(金津本陣IKOSSAの活用)									